

第45回（平成28年度）全国豆類経営改善共励会 受賞者の概要

【全国農業協同組合連合会会長賞（大豆経営の部）】

高崎 稔 氏（富山県富山市）

（経営の概要）

品種名	作付面積 (ha)	28年単収 (kg/10a)	労働時間 (hr/10a)	費用合計 (円/60kg)	品質(1,2等比率) (%)
シュウレイ オオツル	7.5	205.7(128)	5.5	15,024	27.5

注：単収の括弧書きの数値は、富山県の28年平均単収

（活動の概要）

高崎氏は平成17年に認定農業者に認定されて以来、規模拡大を進め水稲7.6ha、大豆7.5ha、大麦2.3haを経営し、地域の主要な担い手として活動し、大豆生産が経営の重要な柱となっている。

排水対策の徹底といった基本技術の励行に努めている。大豆の作付ほ場には、必ず発酵鶏糞や石灰質資材を施用するとともに、一部ほ場では緑肥作物のすき込みを行うなど土づくりを重視している。

また、自らの経営改善のためにGAPに取り組んでいる。

【農林水産大臣賞（大豆集団の部）】

農事組合法人 ホクシン（新潟県村上市）

（経営の概要）

品種名	作付面積 (ha)	28年単収 (kg/10a)	労働時間 (hr/10a)	費用合計 (円/60kg)	品質(1,2等比率) (%)
エンレイ 里のほほえみ	13.9	308(194)	7.0	20,582	95.2

注：単収の括弧書きの数値は、新潟県の28年平均単収

（活動の概要）

当法人は平成18年に設立されて以来、規模拡大を進め水稲37.6ha、大豆13.9haを経営し、地域の担い手として活動し、大豆生産が経営の重要な柱となっている。

基本技術を励行するとともに、丁寧な作業を行っており、特に、排水対策や除草対策を徹底することで、高収量・高品位な大豆生産を達成している。

近隣の大豆生産組織と協力し、技術の研鑽、共同でのほ場巡回や発生予察や防除対応、機械の利用調整を進めている。

また、経営改善のために積極的に新技術や新品種を導入している。